

【今なぜ団塊世代が問題か？】

団塊世代とは堺屋太一氏が書いた「団塊の世代」のタイトルの熟語であるのは周知の事実である。昭和20年8月の終戦後、戦地から復員した兵士たちが、いっせいに子づくりに励んだ結果、昭和21年から24年までにかけて出生数が特別に多くなる現象をとらえて「団塊」という言葉を使用したものである。

小生も昭和24生まれの57歳だが、この団塊世代が700万人強(800万人のデータもある)生存しており、今年から3年後の平成21年までに続々、60歳定年を迎える最中である。来年「2007年問題」が「問題」になっているようだが、団塊人のひとりとして、なぜ?といたい。

昭和22年生まれの来年定年を迎える団塊人が、団塊世代の中でも大量に退職する減少をとらえて「2007年問題」を問題視している。23年生まれ、24年生まれがそのあと続々退職するわけだが、「ベテラン職人が急減」「大量の退職金支払い」「家計貯蓄率の急減」「社会保障費の急増」などをマイナスファクター(要因)にあげているなら、何をいまさら言わんかだ、と団塊人当事者として激高したくなる。

思えば団塊世代は幼少の過去から老齢化の今日まで、「脱脂粉乳給食」「すし詰め教室」「受験戦争」「就職戦争」「出世競争」「住宅難で社宅競争」などなど、人口が多すぎる同世代とのサバイバル競争に明け暮れてきた。気がつけば世の中、バブル崩壊による企業経営の再建のため、リストラによる「早期退職」勧告で、第一次から企業によっては第四次まで、「割り増し退職金」の早い者勝ち「競争」の憂き目を味わう結果。

今の日本の高度経済とGDP押し上げの立役者であった事は、誰にも否認ない事実であったと思う。確かに「良い高校」「良い大学」進学を目指して、めでたく入学できる事が「良い会社」に就職できる事の、「パスポート」を手に行けることが確約(良いという解釈は当時なりの成功確率が高い、の意味)。この「不文律」を確信して、ある意味「一心不乱」勉強に励んだ団塊人はかなりの数に上ったに違いない。

団塊ジェネレーションは、すなわち「自分の事は自分で始末」しなければ、置いてきぼりを食らう「習性」が生まれながらにして身についた世代であるのが団塊世代の「特質」である。「猫も杓子も」今はやりの「自己責任」と言う言葉は、団塊人は60年前から生まれながらにして「身をもって実践」していたと、言っても過言ではない。

団塊人当事者として、「2007年問題」は企業と国と行政側のマイナスファクターを、問題視しているようにしか伺い知れない。団塊人の一人の私見として言うなら、団塊人の退職後は、60年前から生まれながらにした「身をもって実践」してきた「自己責任」習性により、前途洋々の明るい展望を抱いてライフワークに猪突猛進する人が多いはずだと断言して止まない。企業と国と行政側がマイナスファクターとして問題視している「問題」は、退職目前の団塊人にとって、理解できない迷惑な「誤謬」に過ぎない。

即ち60年前から「2007年問題」は始まっており、この事実の終末結果を問題視

しなかった企業と国と行政が無為無策のまま、今日まで漫然と嘗々脈々「時間だけ経過」してきたことを真摯に振り返ることが喫緊の急務であると思います。

最後に解決策の一端を披露します。「2007年問題」の大きな問題である、「ベテラン職人が急減」「大量の退職金支払い」「家計貯蓄率の急減」「社会保障費の急増」などマイナスファクター（要因）を取り除けば100%、問題は解決します。

ベテラン職人である団塊人を気持ちよく再雇用し再活用する

退職後ゆとりあるライフワークを保障できる退職金の分割払い

ゆとりある退職後の生活保障により家計貯蓄を維持

継続雇用打ち切り後にもゆとりある生活保障される年金給付

猛烈社員と同時に遊び世代でもあるので「遊び」に適度なお金を使わせる

団塊人として「2007年問題」に私見を述べました。同世代、異世代問わず私見に意見を頂戴できれば幸いです。